

令和2年度 調布市立第三中学校 学校経営計画（学校長 大瀬 義一）

学校の教育目標	
1 自ら学び考え、向上しようとする人 2 自他を思いやる、心豊かな人 3 心身を鍛え、たくましく生きる人	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
生徒が将来に希望をもち、夢の実現のために基本となる社会的な力を育成し、情操面をはぐくむ指導を行う。自ら学び向上しようとする力を高める指導、互いの違いを認めることで思いやる気持ちを醸成し、生きる力を育む指導を行う。「学校は子供のためにある」学校は、子供が認められ、安心できる居場所づくりを目指す。活力に満ちた学校生活をおくることで一人一人に自信をもたせ、明日へのよりよい生き方を求め、日々努力し成長する存在であるよう、教師は指導において個性を尊重し、受容的、共感的、肯定的な雰囲気を含み備えた指導を行う。	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	以下に上げるような、力を育成することが必要な時代背景と本校の課題があるから。 ・社会のグローバル化や変化に対応できるためのスキルを身につけ、自らのキャリアを構築できる力を育てる。 ・命の大切さを知り、多様な価値観を認められる心を育て、良好なコミュニケーション力を育てる。 ・失敗や困難を乗り越え、社会を生き抜く力を育てる。
中期的な経営目標	
① 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ち、生徒の自発的な学びを促す授業改善を行う。 ② 基礎的・基本的な学習内容の定着のため、数学や英語での少人数授業の実施や、放課後補習を実施する。 ③ 学級活動を中心に道徳の授業や学校行事等を通して、自他の生命や人格を尊重し、お互いの違いを容認できる人権意識を身につけた人間性豊かな生徒の育成を図る。 ④ 計画的な学級経営を行い、いじめや不登校を生まない集団作りを目指す。 ⑤ 学級活動や教科との連携や生徒会活動との連携を図り、話し合い活動の基礎環境を構築し、一人ひとりの意見を出しやすい雰囲気をつくり、自分の考えを表現できる主体的な生徒の育成をめざす。 ⑥ 生徒の主体性を育むため、生徒会活動、部長会を中心にした生徒の発想や企画を重視し、生徒自身に規律を守ることの大切さに気づかせ、自律できる健全な生徒の育成を目指す。 ⑦ 教育相談を組織的に充実させ、全クラスで二者面談、三者面談を実施することで、生徒理解を深め、一人一人の生徒に寄り添う指導の充実を図ります。校内研修を行い、組織的な教育相談体制を目指す。 ⑧ 特別支援教育を推進し、ユニバーサルデザインを意識した学習環境づくり及び授業展開を工夫し、誰にでもわかりやすい授業改善を行う。 ⑨ 教育活動全体を通じて、「生き方」の視野を広め主体的に進路を切り開く力を育てる、キャリア教育を行います。	
人・組 ・教員の特別支援教育に対する理解を深め、一人一人の自尊感情を高める取り組みを行う。そのため、校内通級教室の利用、巡回指導員や専門員、スクールサポーターと連携し、個に応じた適切な支援を行う。 ・特別支援教育や発達障害に対する教員の理解を深めるため、定期的なミニ研修を実施する。 ・不登校対策のため、スクールサポーター、スクール・カウンセラー、学校と家庭の支援員等を活用し、校内委員会を中心とした組織的な対応を進めていきます。	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
① 豊かな心(徳)	② 確かな学力(知)	③ 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
①全クラス年3回の三者面談と2回の二者面談を実施する。	①新指導要領に向けた校内研修として授業研究を年2回教科ごとに実施する。	①部活動の機会と種類を増やし、スポーツに親しむ
②計画的な学級経営を行い、いじめや不登校を生まない集団作りを目指す。	②放課後補修教室を毎週水曜日に実施し、基礎の定着を図る	②
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
①生徒アンケートにおいて、「先生は悩みの相談を聞いてくれる」の肯定的回答80%を目指す。	①生徒授業アンケートにおいて、教員の授業の工夫した授業かについて80%の肯定的回答を目指す。	①生徒アンケートにおいて、部活動に積極的に参加しているとの回答80%をめざす。
②保護者アンケートの「先生はいじめのない学級作りに努力している」の肯定的回答90%を目指す。	②保護者アンケートで学力が向上している。について70%の肯定的回答を目指す。	②

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

4 生徒の主体性を育む(特別活動)	5 特別支援教育	6 キャリア教育
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
①生徒会活動、部長会を中心にした生徒の発想や企画を重視し、生徒の主体的活動を樹脂する。	①教員の特別支援教育に対する理解を深めるため、職員会議後にミニ研修を実施する。	①教育活動全般を通して、キャリア教育につなげる指導を行う。(各教科等の身に着ける力とキャリア教育を結び付けた指導を行う。)
②	②通常級の生徒へ、障害理解のための授業を各クラス1時間行う。	②
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
①生徒アンケートの「生徒会活動に積極的に取り組んでいる」の肯定的回答80%を目指す。	①教員アンケートで「理解が深まった」の肯定的回答90%を目指す。	①教員アンケートで「教科の授業でキャリア教育につなげる指導を行った」の肯定的回答90%を目指す。
②	②特別支援学級及び特別支援教室を利用する生徒に対するいじめ件数を0を目指す。	②

人材育成・組織運営

- 経営支援部を分掌として独立し、主幹教諭をその長として、副校長の直下で学校運営と主幹育成を行う。
- 主幹教諭の下に、教育相談部を設け、学校全体で組織的な教育相談体制を構築し、運用する。
- 主任教諭選考を積極的に受験させ、主体的に学校運営の意識を育て、将来の管理職を育成する。